

「我とそれ・我と汝」

～聖霊様と共に生きる3～

ヨハネ15:1～21 5:17～25

イエスキリストが十字架にかけられた時人々は過ぎ越しの祭りの時でした。祭りの時の習慣で一人の極悪人の罪を許すという儀式があり、イエスキリストが十字架にかけられる時ピラトは「この人に罪は認められません」、「ユダヤの法律で裁きたければお前達で裁け」とユダヤ人に返します。当時ユダヤはローマの支配の中にありましてユダヤ教で人を裁くことは出来ませんでした。ですから一度ローマの総督に裁判を願いましたが、ローマの法律にはイエス様の罪はありませんでした。パリサイ人の大祭司のカヤパに返したりしてイエスキリストはタライ回しに合いピラトは過ぎ越しの儀式の時にイエスを助けたらどうかと言いますが、人々はバラバを釈放しろといひ彼を釈放しました。バラバとは大変な強盗殺人者で罪人でした。その人が思っていることと、回りで見ている人達は全然違う見方をしています。ヨハネ5章17節を読んでいくと人々とイエス様と弟子達との会話に対して群衆である人達やパリサイ人達は全然違う見方をしていきます。そんなところを読み取っていきたいと思います。

■ 父 ヨハネ15:1～25

人々はイエス様が神様のことを父と呼んでいる事について腹を立てたと書かれています。聖書の中で神の事を父と直接呼んだのは旧約聖書の時代には一度もありません。3回程父なる神と呼ぶだろう等ダビデの詩編や申命記の中にもそうなるだろうと言うニュアンスの事はありますし孤児の父なる神と云う表現は旧約聖書の中には出てきます。ところが、父なる神と呼んだのはイエスキリストが新約聖書の時に初めて自分で呼んだのです。イエスキリストがなぜ十字架にかかったのかと言うと父なる神と呼んだからです。人を造ったのは神様です。生みのお父さんが父であるのは当たり前です。ところがイエスキリストは「お父さん」と、「私が子である」と呼んだので、彼をますます神と等しくしたことに對して怒りを燃やして殺そうとしたのです。イエスキリストが何故十字架にかかったのですかと聞かれました私たちの罪の為に、その原因はイエスキリストがお父さんと呼んだからです。クリスマスの前に是非ヨハネの福音書を読んでください。一つ一つの言葉が深い意味があります。何故父と呼んだので十字架にかかったのでしょうか。当時人々はアダムとイブ創造以後罪を犯して墮落し父の園から追い出されてしまいました。彼らと父との関係はその時で途切れてしまいました。ですから私達人間は全て父という存在にたつまずいて人生をスタートしている罪です。これが原罪です。原罪とは自分で自分を守ろうとすることが罪です。私達の心の中にはあのアダムとイブが追い出されてからカインとアベルが生まれようとう殺し合いが始まりました。その理由は一人が神様から褒められて、一人は褒められなかったという価値観です。人々の視線はお父さんとの信頼関係ではなく、人を通して見る人の視線だったのです。ですからカインは自分の弟が評価されるのを見て自分が評価されなかった結果お父さんに文句を言わず弟に怒りをぶつけました。そして、弟を殺しました。神様はカインを呼んで町から追放されカインが心配したことは神様と離れたくないことではなく自分が自分をどう見るかに殺すのではないかということです。私達も人が自分をどう見ているかに視線がいつてしまいます。私達の視線は人に向かってしまいます。あなたの視線が神様から壊れて両親に向かってしまいます。子供は生まれて3年間間父が欲求を満たしてくれるが試しますが、8割は裏切られてしまうと言われています。神様からも人からも断絶された彼らはそれから自分で自分を守って生きるしかないのですが、当然目の前にイエス様が現れて「私の父は今に至るまで働いておられます。ですから私も働いています。」と言いました。神様から捨てられ父のいない彼らはルールと決まりを守ることで自分を保っていましたが、特別に行動するイエスキリストに怒りを覚えました。隣の人を見るようになった人間はいつも神の視線を人から受けようとするのです。本来人間が神様が自分をどう見ているか心配なのです。なので、神様に對して興味はあるけど神様との回復が出来なくなったのです。神様の事を概念で、ある意味お父さんとはわかってはいますが、お父さんの概念は一体何なのでしょう。そんな時現れた時にイエスキリストが自分は特別だといひ「父は誰をも裁かずすべての裁きを子に委ねられました。」といひ、それを聞いた彼らは怒り裁かれる前に裁いてやると思ったのです。ところがイエスキリストに委ねられた裁きとは父は子に裁きを委ねたとはどういうことでしょうか。父は誰の事も裁かず、裁きの権利を委ねられたイエスキリストが自分で裁きを背負うという道を選んだのです。彼は裁き主として死ぬのです。イエスキリストはここで自分があなたたちの罪を背負うと伝えてい

るのです。誰も父は裁かない、それは全ての者が父を敬うように子を敬うためです。父なる神様を見るためにはイエスキリストを見る方法しかないのです。イエスキリストがどう裁くかが父を敬うことになるからです。その父が子供を通してその姿を現す方法として神の生き方は自分で自分の命を捨てるといふ生き方で人々を許すという方法を伝えるために父の存在を現そうとしました。神様はあなたの人生の中で自分が死んだのです。それが父です。父というのはあなたの為に死んだのです。

■ インサイダー・アウトサイダー

ヨハネ15:1～21

父の存在の欠落は本当に人生に大きな影響をあたえています。この世の中ではお父さんの存在が壊れ子供達はアウトサイダーになっているのです。私たちの世界は外側の人達を造っているのです。物事を客観的に傍観する人です。主体性の人が見てきています。お父さんの存在が物事に向き合わないのを見てきたのです。父親が逃げたり人生を否定したりした姿で自分の人生を決めつけてしまうのです。農夫である父はブドウの木であるべきなのです。しかし、ブドウの木で、農夫である父は農夫として例えて、子をブドウの木としたのです。子は父の姿を代弁して現わす存在としてこの世に遣わされまされた。神様が今私達にしようとしておられることはイエスキリストの生き方を通してあなたの父の生き方を学べと伝えようとしているのです。イエスキリストを通してあなたの人間のお父さんとあなたのお父さんとの価値観を回復しなければなりません。我と汝になってしまう最大の理由は父との関係の欠落です。本当のお父さんとの関係を失わせることによって結果あなたを生きる生き方を失わせるのです。父との関係はクリスチャンの人生にとって一番大事なテーマです。私達は心の内面の回復について向き合ってきましたがなかなか次のステップに進めません。それは、父との関係が回復されないからです。父との関係を回復するには客観的な生き方では無理なので、お父さんに向き合うしかないのです。苦しみの中にある時にお父さんの所に行ってみるしかないので。何度も通って初めて本当のお父さんがわかってくるのです。私達は失敗を犯してしまいますがイエスキリストはなぜ失敗をしなかったかと思いませんか。それは神様の事をお父さんと思えていたか、思えていなかったか。もしあなたが失敗をして神様は私を嫌いになるのではないかと思っているならあなた人間のお父さんと同じ見方で神様を見ている証拠です。父の存在を回復しないと神様の事を受け取った本当のあなたになれない。だから我とそれで生きるしかありません。あなたに関わる人は道具でしかすぎません。相手の動き方によってあなたは変わっていませんか。神様との直接的な関係ではなく、その人を通しての関係かもしれない。インサイダーから脱皮しなくてははいけません。

■ 父が行うことを行うヨハネ16:25～33

私達は父が行ったことでしか生きることができません。人間のお父さんの姿を想像して見てお父さんの以上の事はできません。神様はあなたのお父さんの良いところだけ引き継がせて悪いところは全部十字架で背負って本当に神様の良いところをプラスαして生かそうとしたのです。ですから父がおこなうことしかおこなえないのです。その父を知らない私達はイエスキリストを見て生きる方法を神様が与えたのです。だからブドウの木になったのです。あなたがイエスキリストに繋がっていないと実が残らないので刈込されてしまいますが繋がっていただければ本当のお父さん、農夫が来てあなたの実が残るように身体についての無駄な枝を取って日が当たるように保護して枝にとどまれるようにすると言っています。私達はイエスキリストを見なくてははいけません。イエスキリストを見る方法は2千年前の聖書の記事を読むしかないのでお父さんの姿を捨ててください。クリスチャンの隣の人と比較して生きているのは神様を知らないからです。隣の人の視線が気になるのはあなたと神様の関係を客観的に見ているからです。神様はあなたの中にいますかあなたは今どこにいますか。私達が外にいるのはもったいないです。今あなたがどこにいるか思い返してください。

(要約者:富岡 美千男)

(2018年12月2日)